



古畑 一夫 議員

木曾町を中心とした
公共交通路線バス

への路線バスの復活は考えられないか。
企画調整課長 基本的には観光路線と考え、おんたけ交通とどのように考えているかを話し合いたい。

問 木曾町・伊那を結ぶ公共交通路線バスについて

「伊那地域交通ネットワーク検討委員会」がおこなったアンケート結果について、木曾町としてどのように考えるか。

企画調整課長 連絡バスについては19年か、20年度中に試行運行を考えている。

また交通事業者が役員会のメンバーとして入っているので検討していく。

問 各種イベントに臨時バスの運行は考えられないか。
企画調整課長 それらも含め今後検討委員会で考えていく。

問 木曾福島駅より上高地

考えると、現在、時間の変更はむずかしい。



榎本 力 議員

財政見通しについて

問 自治体の破綻が現実的になり、夕張市が破綻宣言をして、国の管理下で運営する財政再建団体となった。

住民に直接負担を強いる、財政のかじ取りは、重要である。町の財政状況と全国での比較はどうか。

総務課長 財政規模は、5年間で圧縮して平成23年に、88億7千万円を見込んでいます。公債比率は平成19年には一時的に上がるが、その後は、減少して16・1%になる予定である。

問 19年度も基金の取崩しがあつて、見込み通りいか

ないのでないか。

総務課長

全国では163番目、県下では12番目に悪い。

適正な財政運営を行って達成したい。

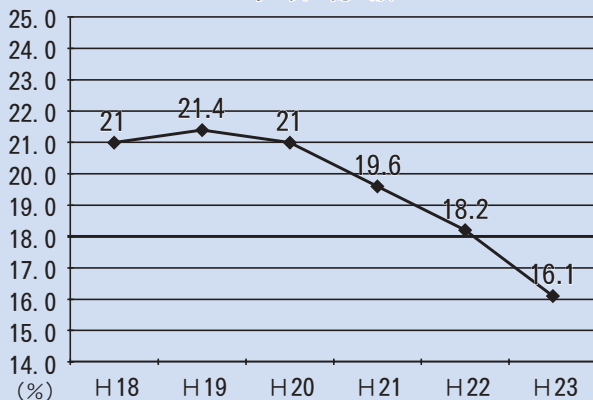
問 継続中の事業であつても財政状況から、見直しをする考えはないか。

町長 いまのところ考えていない。投資的経費を抑制しながらも、生活基盤の充実に配慮する。

問 過疎債等に切り替えることにより財政負担は減るが、債務が増えることにならないか。

総務課長 町の財産に関わるもの、事業について有利

実質公債費 $\left(\frac{\text{全会計借入金返済額}}{\text{予算総額}} \right)$ 比率見込



であれば、極力適用させた

問 投資事業がおこなえるのはいつ頃と見ているか。

総務課長 一つとはいえないが、随時、整備をする。

問 合併により使用されない施設の利用を考えてほしい。

総務課長 町として検討する。